

郵便
報知新聞
第百廿五号

本年三月廿日の夜迄本貫の...
 金設け為さぬ馬鹿と云程の地獄女乃
 流行の毎區の街小有らざる無かれ其
 枝何程多しや知まじき二時御前が能
 廻り不意の踏込と捕はせし三百人計と聞
 一さし此中三二度三度と押られるも
 有さし捕前年御觸出の間際高直
 の鬼の買込一連中と同一敷の事されば
 一違託生故に不便とするに足らぬ云
 且此度みそで正業の立戻し即ち
 其日より良民とあり又勝手まで此
 賤業が為一度ハ吉原根津の四宿
 の管轄を受つての良と呼れ賤と
 称らざる其二道の追分此夜一條の
 繩の下決するさへ



70
65
60
55
50
45
40
35
30
25